

臨床心理士試験対策心理学標準テキスト(指定大学院入試対応!) '14~'15年版
<正誤表>

●41 ページ 他者との比較や対人認知 下から5行目

【誤】 救済者を助ける方法がない場合に、

【正】 救済者が助ける方法がない場合に、

●43 ページ 本文 4行目

【誤】 認知的整合性に関する理論としては、

【正】 認知的齊合性に関する理論としては、

●50 ページ 愛着の形成 本文 1行目

【誤】 ボウルビー(Bowlby,J.M)

【正】 ハーロウ(Harlow,H.F)

●50 ページ 愛着の形成 本文 2行目

【誤】 ボウルビー

【正】 ハーロウ

●51 ページ 本文 4~5行目

【誤】 回避型、安定型、抵抗型、アンビヴァレント型の4つに分けました

【正】 安定型、不安型(アンビヴァレント型)、回避型、無秩序・無方向型の4つに分けました

●73 ページ PM理論図 図の左上

【誤】 Management

【正】 Maintenance

●87 ページ 1行目、2行目

【誤】 潜在記憶(explicit memory)

顕在記憶(implicit memory)

【正】 潜在記憶(implicit memory)

顕在記憶(explicit memory)

●154、246 ページ

【訂正】

154 ページの章末問題は第4章の内容に対応したものであるので246 ページに移動します。このページ(第2章)の章末問題と解答は以下のものになります。

1. クライアントとセラピストの信頼関係のことを(①)という。
2. ウィニコットは、子どもの心身の発達を支える母親の機能として(②)を提唱した。
3. ユングが提唱した元型の中で、破壊性と反道徳性を特徴とする負の英雄を指すものを(③)という。
4. (④)は認知行動療法におけるストレス免疫訓練を体系化した。
5. エンカウンター・グループにおいて、リーダーではなく世話人の役目を果たす人のことを(⑤)と呼ぶ。
6. ベイトソンは、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションとが逆の意味を持つ場合、その混乱が分裂病を形成するという仮説、(⑥)を提唱した。
7. (⑦)はローウェンフェルトの(⑧)とユング心理学を結び付けて、箱庭療法を確立した。
8. 行動療法から生まれ、自分も相手も大切にしながら言語表現を訓練するアプローチを(⑨)という。
9. 吉本伊信が考案した日本独自の心理療法を(⑩)という。
10. セラピストの必要十分条件とは、(⑪)、(⑫)、(⑬)である。

(答え)

- 1.①ラポール 2.②ホールディング 3.③トリックスター 4.④マイケンバウム 5.⑤ファシリテーター 6.⑥二重拘束仮説(ダブルバインド仮説) 7.⑦カルフ 8.⑧世界技法 9.⑨アサーショントレーニング 9.⑩内観療法 10.⑪無条件の肯定的配慮(受容) ⑫共感的理解(共感) ⑬純粋性(自己一致)

<本書サポートサイト>

<http://www.shuwasystem.co.jp/support/7980html/4077.html>

<秀和システム>

<http://www.shuwasystem.co.jp/>